

小引

關係哲学綱要、東西哲学判釈史、科学原理統一論

ノ三書、草稿成ル、三書ヲ合称シテ之ヲ哲学一家

言ト謂フ、通讀一過、歡喜踴躍、自ラ手ノ舞ヒ足、

踏ムヲ知ラサルヤリ、昔者シヨペンハウエル、其バ

レルガ、ウインド、パラリホメテ「書名」ヲ草シ終ル、

日、之ヲ地ニ擲テ、我今日吾天職ヲ全フセリト絶

叫セリト聞ク、余モ亦同感無クン、ハアラゲルヤ

リ、然リト雖モ、昔人言フ有リ、カントノ「ク」リテ、ク

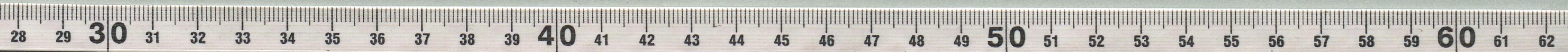
テル、ライオン、フルニユンフト「書名」ニシテ、獨逸ニ

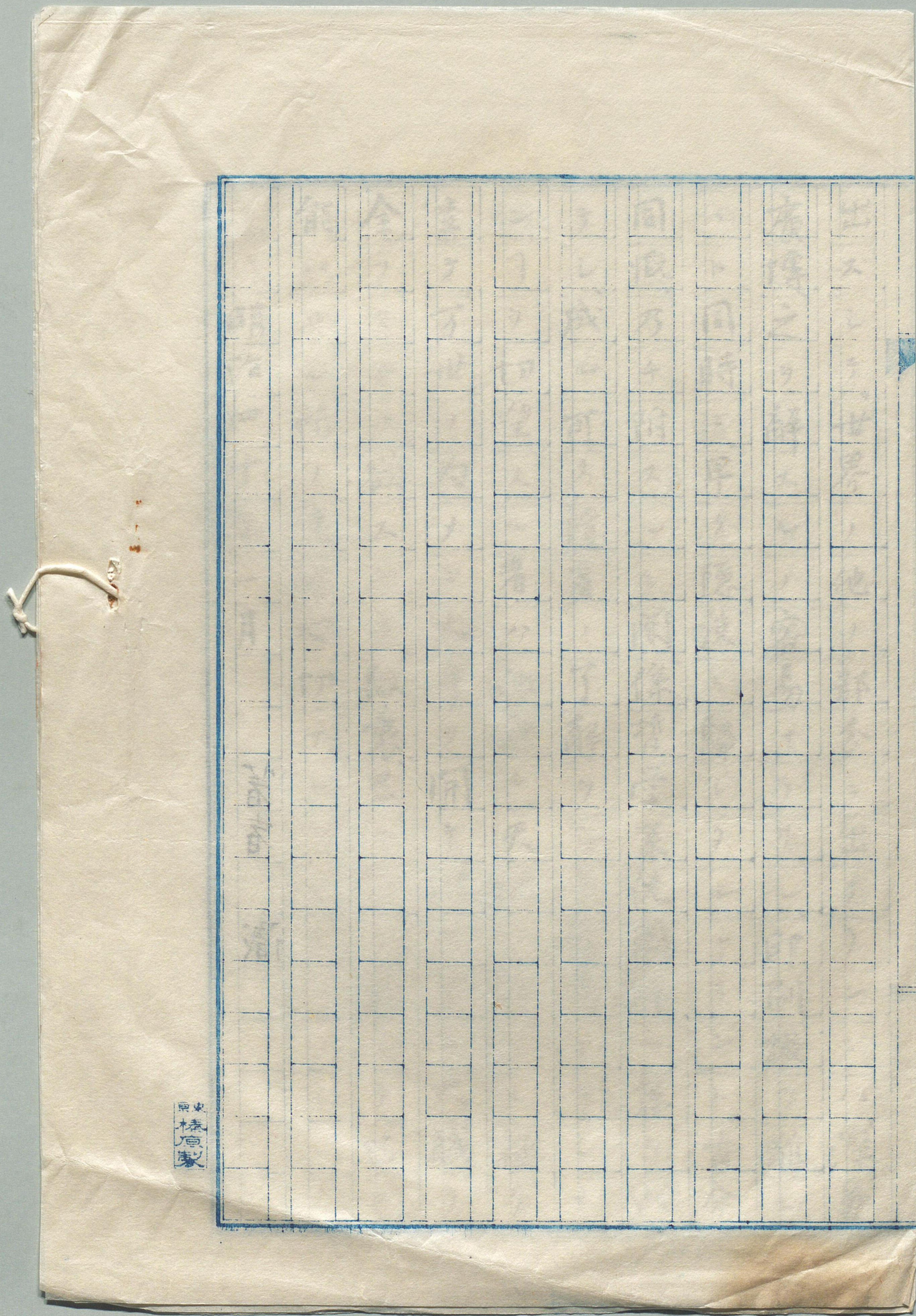
出ズシテ、世界ノ他ノ部分ニ出タランニハ、深奥
廣博之ヲ解スルノ容易ナラサル、印刷機ヲ離ル
、ト同時ニ、早ク、隠微ニ歸シタルナラント、古今
同慨、乃チ附スルニ、関係哲学系統圖解一篇ヲ以
テシ、成ル可ク、讀者ノ了解シテ、容易ナラシメ
ン、ト切望スル者ハ、他無シ、天地ノ為メニ、極シ
立テ、万世ノ為メニ、太平ヲ開キ、以テ余カ夫職ヲ
全フセント欲スルノ微衷、已マント欲シテ、已ム
能ハサル所、老婆心切ナレバナリ

明治四十年一月

橋原製

著者 藏





東
橋
家

